

会 議 議 事 録

1 会議名	令和元年度第1回長岡市寺泊水族博物館協議会
2 開催日時	令和元年 7月 12日(金) 午後3時00分から午後4時45分
3 開催場所	長岡市寺泊文化センター(はまなす) 3階小研修室
4 出席者名	協議会委員 大浦方委員、金内委員、古川原委員、品田委員 田中委員、遠山委員、中川委員、柳下委員、山田委員 委員以外の出席者 小池教育部長、河内寺泊支所長 大矢政策企画課長、小熊科学博物館長 佐藤科学博物館長補佐 (事務局=寺泊水族博物館) 青柳寺泊水族博物館長、安藤主査、矢引主査
5 欠席者名	石井委員
6 議題	報告(1) 令和元年度事業実施計画・状況について (2) 水族博物館整備事業の計画(概要)について
7 審議結果の概要	(1) 令和元年度事業実施計画・状況について 概要を事務局より報告、説明 (2) 水族博物館整備事業の計画(概要)について 概要を事務局より説明

8 審議の内容	
事務局	<p>(1) 令和元年度事業実施状況・計画について (資料により説明) 主な意見は次のとおり。</p>
委員	<p>上越市立水族博物館と寺泊水族博物館を比較することはできないが、上越のような新しい水族館がどのように整備され運営されているか常に関心を持ち続けることは寺泊水族博物館にとって大切と感じる。寺泊水族博物館を建て替える時に、上越市立水族博物館の課題を分析して参考にすることができるのではないかと。水族館は教育施設でもあるので、レクチャールームを設けて、そこで解説や講座ができると良いと思った。</p>
委員	<p>寺泊水族博物館は観光がセットになっている。寺泊水族博物館を訪れた人たちは、水族館の他に魚を買いに行ったり近くのトキの分散飼育場に行ったりと、近隣の観光施設へ足を向ける人が多い。施設の整備といったハード面だけではなく、今後は近隣地域とのコラボや職場体験、出前授業などのソフトの充実が求められている。寺泊水族博物館は、施設の規模や集客数では上越のような大型水族館におとるが、ソフトを充実させ今後も水族館と地域の発展に役に立ててほしい。</p>
事務局	<p>上越と寺泊では水族館の規模や展示の内容も違うので単純に比較はできないが、今後の水族館の在り方や整備についてはいろいろな意見を取り入れ考えていきたい。</p>
委員	<p>寺泊水族博物館を訪れたとき、たまたま生き物の餌やりの時間だったようで、ペンギンやクラゲの餌やりを見ることができた。餌付けショーの時間はパンフレットやホームページに掲載されているが、餌やりの時間もショー同様にパンフレットやホームページ等で周知したらたくさんの方が見ることができ、さらにリピーターの獲得にもつながるのではないかと。</p>
事務局	<p>餌やりの時間はだいたい何時頃と決めて行っているが、ショーと違って日々の作業によって若干時間が前後する。何時から餌やりをしますとホームページ等で周知してしまうと、ショーのようにその時間きっかりから始まるものだとお客様に誤解を与えやすい。餌やり時間の周</p>

	<p>知に関してはクレームにもつながるので慎重に検討したい。</p>
委員	<p>リピーター獲得について、子どもだけではなく大人も前回訪れたときに見た魚が大きく成長しているのを見ると嬉しい。寺泊水族博物館は、お目当ての魚を見る楽しさを持つ水族館なのでこれからも飼育を頑張ってもらいたい。</p>
事務局	<p>たくさんのお客様に成長していく魚の姿を見て楽しんでもらえるよう今後も飼育に力を入れていきたい。</p>
委員	<p>飼育に生と死はつきものだと思う。旭山動物園の展示だが、新入りの動物の説明板には赤い印、亡くなった動物の説明板には青い印をつけていて、動物の生と死を感じる展示になっている。寺泊水族博物館でも参考にできるのではないかな。</p>
委員	<p>市政だよりの表紙に寺泊で繁殖したペンギンの赤ちゃんが掲載されていた。動物園水族館の原点は繁殖なので、これからも生き物の命をつないでいってほしい。</p>
事務局	<p>繁殖には経験と知識が必要なので、繁殖技術の継承という点でも若い飼育員の育成に力をいれていきたい。</p>
委員	<p>寺泊水族博物館は飼育員と観覧者の距離が近く、そこが大型施設との違いであり魅力になっている。建て替えの際は、入れ物だけを大きくせず、その魅力を大切にしてほしい。</p>
事務局	<p>魅力という点で、水族館では「バスでどきどき水族館」等の学習プログラムを用意しており、市内の小学校から多く利用していただいている。飼育員と子どもたちの距離が近く、解説もわかりやすいと好評である。</p>
委員	<p>子どもにとって寺泊水族博物館は学習の場としてもレジャーの場としても大いに活用できる。しかし、大人が興味を持つ生き物はあまりないと思う。集客という課題に目を向けたときに、大人に向けてどのような目玉があるかは大切なことと考える。最近死んだ38年生きたアザラシにかわる生き物の導入は考えているのか。</p>

事務局	新たにアザラシを導入するには、新しい飼育プールを用意しなければならず、難しい。水族館の実情と併せて検討していきたい。
事務局	(2) 水族博物館整備事業の計画(概要)について (資料により説明) 主な意見は次のとおり。
委員	トイレの洋式化についてはいつ頃完了するのか。
事務局	令和3年に完了の予定となっている。
委員	他に整備しているものはないか。
事務局	今年度は、観光望遠鏡を3台のうち新しく1台入れ替えた。観光望遠鏡は寺泊水族博物館の大事な収入源であり、3台で年間60万円ほどの収入となっている。
委員	今後の方向性はどのようになっているのか。
政策企画課長	施設の面では、平成26年度に躯体の大規模改修工事を実施し、それ以降も空調、エレベーターの改修等、今あるものをなるべく長寿命化させるためにやっているというのが実情である。県や国の大きな動きが起こってきているので、様々な情報を収集しながら何が一番良い方向なのかを引き続き探りながら検討していきたい。
寺泊支所長	国道402号線のバイパス工事の実施設計が今年度行われ、今後4年間くらいで形になっていく予定である。併せて大河津分水路工事に伴う土砂の搬入が行われる。年次が進み港や海浜地の利活用について国、県の計画が具体化してくる中で、市もどうするかを検討していくことになる。 以上で閉会とする。
	以上
9 会議資料	別添のとおり